令和５年４月 20 日

土佐リハビリテーションカレッジ
理事長　大﨑　博澄　様

学校関係者評価委員会
委員長　北村　剛

第８回 学校関係者評価委員会報告書

令和４年度開催　第８回 学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

記

１　学校関係者評価委員
①　小笠原　正　（企業等評価委員）
②　一圓　智加　（企業等評価委員）
③　細田　里南　（卒業生評価委員）
④　北村　　剛　（卒業生評価委員　委員長）
⑤　岡　　里香　（専門家等評価委員）
⑥　濱川　美香　（高等学校等評価委員）
⑦　政岡　紗矢香（保護者評価委員　副委員長）

２　学校関係者評価委員会の開催状況
第１回委員会　平成 27 年８月 29 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第２回委員会　平成 28 年 10 月１日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第３回委員会　平成 29 年７月 29 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第４回委員会　平成 31 年３月 26 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第５回委員会　令和　３年７月 ９日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第６回委員会　令和　４年３月 29 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第７回委員会　令和　４年 12 月 16 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）
第８回委員会　令和　５年３月 30 日（会場：土佐リハビリテーションカレッジ会議室）

３　学校関係者評価委員会報告書
別添のとおり

以上

別添

令和 5 年 4 月 20 日
土佐リハビリテーションカレッジ
学校関係者評価委員会

第 8 回 学校関係者評価委員会報告書

令和 5 年 3 月 30 日に開催された委員会の討議に基づく検討課題と改善に向けた取り組みについて評価結果をまとめた。

1. 国家試験合格率について

【令和４年度の取り組み】

〇国家試験合格率「新卒者 100%」に向けての達成状況

・第 58 回理学療法士・作業療法士国家試験が、令和 5 年 2 月 19 日に実施された。理学療法学科 41 名、作業療法士 29 名が新卒生として受験した。そのうち、理学療法学科は 38 名（合格率 92.7%）、作業療法学科は 26 名（合格率 89.7%）という結果になり、両学科共に「新卒者 100%」の目標を達成できなかった。

【学校関係者評価委員からの意見】

① 国家試験を複数回受験する学生について

【学校からの回答】

① 一定数いる。本校としては科目履修生として声掛けを行い、受験対策を新卒生と同じように対策をしている。自分で勉強する学生はいるが、なかなか合格に達するのは難しい面もある。

2. 4年間卒業率について

【令和4年度の取り組み】

〇4年間卒業率「90%以上」に向けての達成状況

・平成31年/令和元年度入学生である第27期生の入学数は理学療法学科43名、作業療法学科35名である。これらの内、本校修業年限である 4 年間で卒業予定者は理学療法学科で 39 名（卒業率90.7%）、作業療法学科で28名（卒業率80.0%）である。

・これら第27期生の中で国家試験に合格した者は理学療法学科37名（合格率86.0%）、作業療法学科25名（合格率71.4%）であった。両学科共に運営目標値に到達できなかったが、令和4年度も文部科学大臣認定「職業実践専門課程」要件の一つである「卒業率70%以上」を達成することはできた。

【学校関係者評価委員からの意見】

・特になし

3. 退学者数および留年者数について

【令和 4 年度の取り組み】

〇退学者数および留年者数「年間の退学者数 3 名以内・留年者数 3 名以内」に向けての達成状況

・令和 4 年度当初の在学生総数は 258 名（理学療法学科 137 名、作業療法学科 121 名）であった。これらの内、最終集計は、3 月末になるが、退学者数は 12 名（前期 5 名、後期 7 名：理学療法学科 6 名、作業療法学科 6 名)、留年者数は 8 名（前期 4 名、後期 4 名：理学療法学科 4 名、作業療法学科 4 名である。

【学校関係者評価委員からの意見】

・退学者の理由はどういったものなのか。

【学校からの回答】

・人間関係や学力面等多くの要因が関係している。しかし、学力面においては、入学時からの学力不足が大きく影響していると思われる。

4. 入学試験受験者実数について

【令和 4 年度の取り組み】
〇入学試験受験者実数「100 名以上」に向けての達成状況
・次年度の入学予定学生は定員数 80 名に対して、理学療法学科 29 名、作業療法学科 30 名である。
・本校受験者実数増加のためにオープンキャンパス開催や進学ガイダンス参加、高等学校訪問等の多様な広報活動を計画・実行した。新型コロナ感染の影響は、昨年度より少ないが、その影響と時代背景も伴い、対面だけでなく、オンラインの対応も増えてきた。

【学校関係者評価委員からの意見】:
・特になし。

5. 就職率について

【令和 4 年度の取り組み】

〇就職率「100%」に向けての状況

・両学科の就職率は第 1 期卒業生以来、26 年連続して 100%を達成できた。この 27 期生に関しては、ほぼ就職内定しているが、近年国家試験受験後から活動する学生が増加している。

・令和 4 年度採用の求人数は理学療法学科 2,257 名（内、県内 58 名)、作業療法学科 2,047 名（内、県内 56 名）である。前年度に比べて増加が見られている。

・求人先は医療施設に加えてデイサービスや訪問リハビリ、放課後児童デイなどより地域に密着した事業所からの求人も増えてきており、就職先の方向性が多様化している。

・上記からも教育内容の見直しや就職対策、学生の意識改革など、より意識して学生支援を行う必要がある。

【学校関係者評価委員からの意見】

・給与面はどのような傾向があるのか。

【学校からの回答】

・就職先により、待遇は千差万別ではあるが、県内よりは県外の方が額面的なものも含めて、待遇は良いように感じる。また、就職先が多様化してきており、一面的には図れないものもあるのではないかと思われる。

6. その他の報告事項

・令和 4 年度も昨年に引き続き新型コロナ感染症に対して学校内外において対応が求められている。学内の講義は、4 月より遠隔授業と対面授業の組み合わせで分散登校を図り、学生間の密集・密接の回避に努めた。

・臨床実習状況は、2 期 16 週（5 月～8 月予定）であったが、理学療法学科は 1 期 10 週間、作業療法学科は 2 期 6 週・7 週と短縮して実施した。施設の感染状況のため実習中断した場合は、学内演習で対応した。学内演習は、学校内での実技練習や症例演習等、内容を工夫し取り組めるように努力した。

・就職説明会・臨床実習指導者会議は本年度もオンライン開催とした。医療施設や介護福祉施設等が対象であるため、感染対策を徹底するためには必要不可欠と感じている。昨年度の経験も活かされ開催を滞ることなく、実施でき、就職説明会は、対面よりも多くの施設に触れることができ、就職の意思決定に役立っている。

・オーテピア高知図書館との共催にて 9 月にイベントを開催した。

・高知健康科学大学（仮称）の設置構想について

令和 6 年 4 月開学を目指し、10 月の文科省への認可申請後の審査状況等を報告する。

【学校関係者評価委員からの意見】

・①　オーテピアとの共催はどのようなことを行ったのか。

・②　大学化へ向けての問題点等はないか。

【学校からの回答】

・①　今年度は「認知症予防」をテーマに実施した。

・②　認可時期が遅れることによる学生募集が遅れることが懸念される。また、学生確保に関しては、三回目のアンケート実施を行う予定である。今回の対象校は四国 4 県以外の中国地方も視野に入れて実施する。